

## 国立大学法人岡山大学利益相反マネジメントポリシー

平成16年4月1日制定

平成30年4月1日改定

岡山大学の理念は、高度な知の創成(研究)と的確な知の継承(教育と社会還元)であり、これを通じて社会の発展への貢献、特に、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献する活動に取り組み、持続可能な社会の実現を牽引していくこととしています。

産学官連携は教育・研究の成果を社会貢献に活かすための一形態であり、大学が産学官連携を通じて研究成果の社会還元を進めることは、大学がその存在理由を明らかにし、大学に対する国民の理解と支援を得るという観点からも重要です。

しかし、大学や教職員が特定の企業等から正当な利益を得ること、又は特定の企業等に対し必要な範囲での責務を負うことにより、大学、教職員が行うべき公正な活動の信頼性(インテグリティ)を損なわせ、産学官連携による利益や責務が大学における責務と衝突する相反関係が生じる可能性があります。

岡山大学は、教育・研究・社会貢献活動に対する信頼性を確保し、産学官連携活動を推進するため、次に示すように適切に利益相反を管理します。

特に、臨床研究については研究の対象が人間であることから、より厳格な臨床研究利益相反マネジメントを行うこととします。

- 1 岡山大学は、透明性の高い産学官連携活動を行い、説明責任を果たします。
- 2 岡山大学は、利益相反マネジメント制度を構築し、その適用のもとに社会貢献を行います。利益相反に係る社会的要請が特に高い臨床研究においては、その特性に鑑み、臨床研究に関係する教職員を対象とした利益相反マネジメント制度を構築します。
- 3 岡山大学は、産学官連携に関する情報を記録、保存し、必要な場合には利益相反回避のための措置を取ります。
- 4 産学官連携活動を行う教職員に対して社会から疑義が提起された場合には、本学が利益相反マネジメントについての説明責任を果たします。
- 5 岡山大学は、教職員が利益相反の生じる可能性を常に意識し、適正な産学官連携を務めることができるよう、利益相反に関する啓発活動を積極的に行います。